消費者教育ＮＰＯ法人

お金の学校くまもと

会報・第４０号　春特大号 2022年４月発行

〒862-0950　熊本市中央区水前寺１－６－１１セシール水前寺７０１号
ＴＥＬ・ＦＡＸ　096-384-4453　　http://ogk.main.jp/　　Ｅメール：gakkou@sat.bbiq.jp

ごきげんになる言葉

徳村　美佳

みなさま、ものすごーーーーーーーく、ごぶさたしております。なかなか落ち着かない感染症の問題。私は、２回目の予防接種で４日間も寝込んでしまいました。などと、落ち着かないこの話題を前面に出しつつ、会報発行が遅れに遅れた言い訳を考えている次第です。お約束通り発行できず、申し訳ありません。今回の会報では、当ＮＰＯのモットーのである「でけたしこ」（今できることを精一杯）で、取り組んだ活動の報告を中心にお届けいたします。

最近、日本語を話している相手に自分の日本語が通じないという経験が多くなっている気がします。年々、自分のごきげんを自分で取ることが難しくなっているように感じる今日この頃。日本語が通じない相手と出会うと、とたんに自分のごきげんパワーのメモリが減ってしまいます。いくら説明しても、通じない。解説書を示しても通じない。こちらが重要だと言っているものが、相手にとっては、どうでもよいことだったり・・・たとえば、とある相談現場でのこと。相談者に家計収支表を渡して自分で記入してみるよう促しました。が、できない。相談者に支出にした金額を数字で示しても、困った顔をするばかり・・・

そこで、おもちゃのお金を取り出し、支出の費目を書いたカードにお金を置いていきました。手元のお金がみるみる減っていく様子から支出というイメージをつかんでくれたという感触あり！これ、ええ方法やんって、ごきげんになったのもつかの間。

対応記録を読んだ日本語の通じない相手が、こう言いました。「そんなことまでしなくていい。そんなことは望んでいない。」そりゃあ、あなたはそんなことしなくても理解できる。だから、そんなことは望まないでしょうが、望むひともいるんですという日本語がまた通じない。ちなみに、このひとのことは、自分の上位のひとのいうことはなんでも聞く「言いなり」のナリさんと心の中で呼んでいました。このナリさんに命令する同僚がハラスメントタイプのハラさん、このふたりをコントローンできない、常に自分がなくフラフラしている上司をフラさんと呼んでいたのは、ここだけの話です。こんな風にごきげんになれない時、私はいつもこの言葉を書いたメモの写真を見返しています。「生まれた時、きみは泣き、世界は笑った。だから死ぬときは、きみは笑い、世界は泣く人生を生きなさい」ネイティブアメリカン　チェロキー族の言葉。この言葉も、日本語が通じないひとには通じないんだろうなあ・・・でも、それでいいのだ。わしはわしなのだ。この言葉もごきげんになれる言葉のひとつです。

令和３年度　熊本県中学校技術・家庭科教育研究大会でお話しさせていただきました！！

徳村美佳

〇授業研究会でお話しさせていただきました

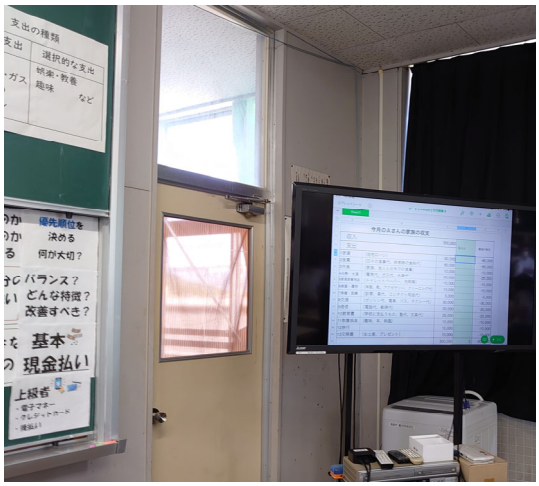
熊本県中学校教育研究会技術・家庭部会主催による授業研究会が、次の日程で実施されました。

令和３年１０月　１日（金）　　熊本市立東部中学校
令和３年１０月２２日（金）　　熊本市立武蔵中学校

その際、お金の学校くまもとに対し、研究授業の協力とアドバイスの依頼があり、徳村が研究授業の中でゲストスピーカーとしてお話しさせていただきました。

題材名は、「私たちの消費生活　～バランス良く計画的な金銭管理」。授業は、父、母、Ａさん（中３）、妹（中１）という模擬家族を設定して一家の一か月の家計支出の調整を考えるものでした。家族が購入したい物は、炊飯器（25,000 円程度）、家庭の事情として、毎月住宅ローン 80,000 円を支払います。そして、来年、Ａさんは高校に進学します。まず、家計支出の調整の仕方を生徒個人で考えます。次に班で話し合い、互いの意見を聞きます。最後に全体で共有します。全体的に、当ＮＰＯの「人生いろいろやりくりゲーム」と構成が共通していると感じました。

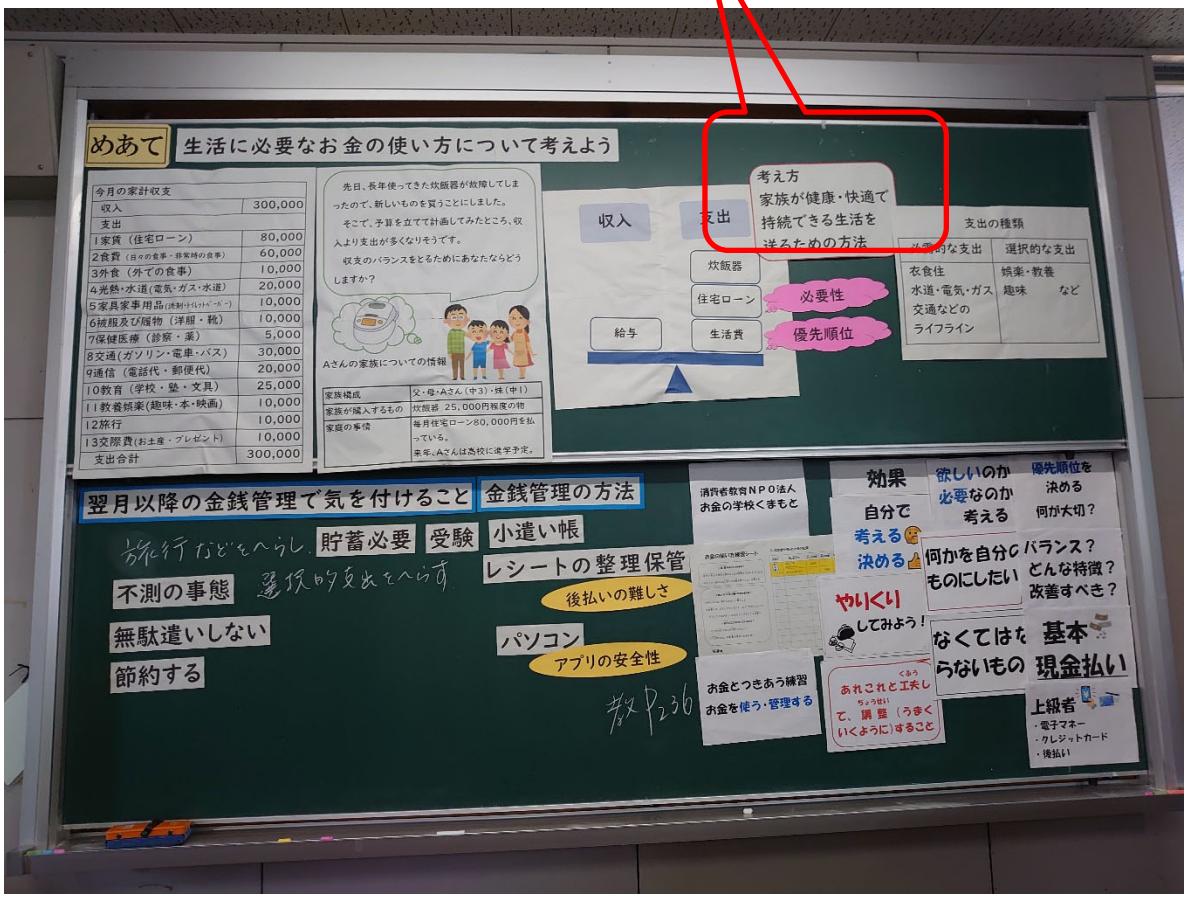
驚いたのは、生徒ひとりひとりがタブレットを持っていることです。タブレットには、あらかじめシミュレーションアプリが入っており、考えた結果を保存し教師のタブレットに送信。生徒が考えた結果全体が電子黒板に反映されます。ワークシートや広用紙を配るという手間がなく、時短できます。



生徒の意見で興味深かったのは、「旅行を減らせばお土産を買わないので、自ずと交交際費が減る」、「環境のためガソリン車をやめて、自転車に乗る」等。考える視点が様々だなあと感心するとともに、授業を楽しんでいる雰囲気が伝わってきて、こちらも楽しい気持ちになりました。

○ここが勉強になりました

家庭科教諭のお話で、とても勉強になるなあと思ったのは、家計支出の調整＝やりくりの目的を「家族が健康で快適で持続できる生活を送るため」と説明している点でした。



○お金の学校くまもとが伝えたかったこと

授業の最後に、お金の学校くまもととして、次のような話をしました。

消費者教育 NPO 法人お金の学校くまもとは、お金を借りて返せないためにまたお金を借りる「多重債務」に陥ったひとの生活を立て直す支援活動をしている団体です。また、私は、みなさんの教科書２３６頁に記載されている「消費生活センター」の相談員としても働いています。私が、みなさんに知っておいてほしいことは、次の点です。

１　何のために金銭管理をするのか

お金は生きていくための道具です。そのため<u>道具を使ったり管理する練習</u>が必要です。手に入るお金には限りがあります。限られた収入をどう使えば、自分の生活がバランスよく成り立つのか練習が必要です。

お金の学校くまもとでは、お小遣い帳のことを「お金の使い方練習シート」と呼んでいます。

練習の効果は、大きく２つです。

（１）自分で考えて自分で決めることが自然とできるようになる。

（２）やりくり（あれこれ工夫してお金を使うこと）を覚える。

２　練習する内容　先ほど、野添先生がお話しされた通りです。※ここは簡単にポイントは、

（１）欲しいものか必要なものかを考える

① ほしいとは、何かを自分のものにしたいと思うこと、手に入れたいと思うこと

② 必要とは、なくてはならないもの

（２）優先順位を決める

どこにお金を使うのか、優先順位を決める。自分にとって何が大切で大切でないのか。

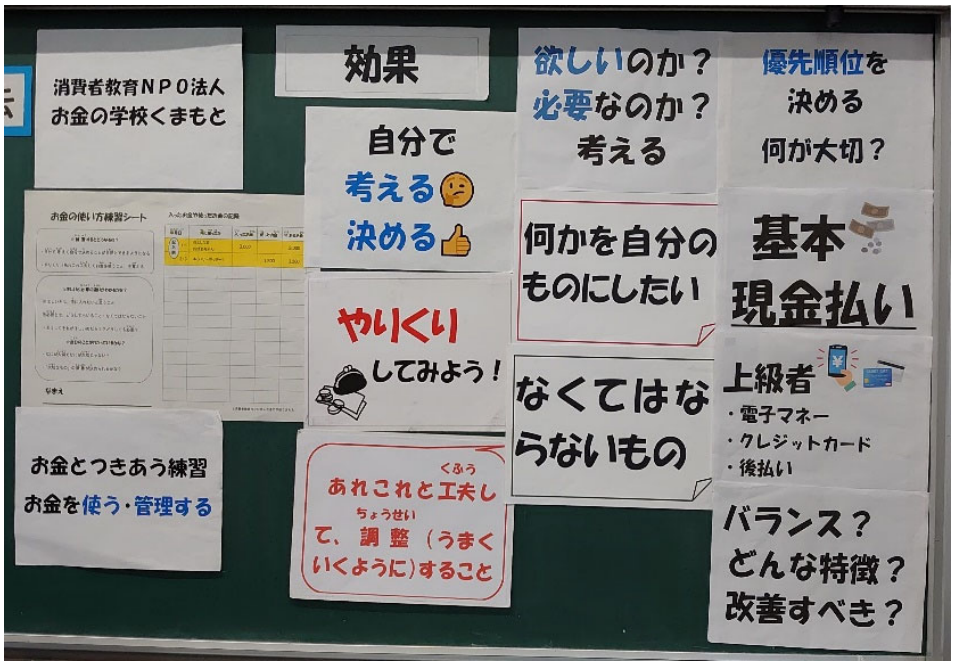
３　練習する方法

まずは、お小遣い帳に記帳します。そして、次の点をチェックします。

① 収入と支出のバランスが取れているか。

② 自分のお金の使い方にどんな特徴があるか。どこにお金を使っているか。

③ 改善すべき点があるか。



基本は、まず現金払いです。電子マナーは、データでの支払いですからお金というものが見えない状態です。見えないものを扱うのは、とても難しいことです。クレジットカードや後払いは、支払うお金をクレジットカード会社や後払いの会社がみなさんの代わりに立替えて払ってくれる仕組みです。つまり、お金を借りて支払うことと同じです。**電子マネーやクレジットカードや後払いは、現金払いでのやりくりができるようになってから使う上級者向けです。消費生活センターにも、みなさんと同じ中学生の相談があります。ゲームの課金で親のクレジットカードを使ってしまって、何十万円も請求されたというものです。これは、クレジットカードのしくみやルールを知らないことが原因です。**

お小遣い帳のアプリは、データを入力すれば自動的に集計しグラフ化してくれる点等は、便利です。ただし、便利なものはリスク（危険性）も高いので注意が必要です。お小遣い帳アプリには、レシートをカメラで撮影することでお小遣い帳をつけられるものもあります。レシートの情報から直接的な個人情報が流失することはありませんが、買ったものの内容からどんなものを買うのか、どんなものが好きか等の情報が流失するリスクがあります。また、ほかのアプリとの連携により外部アプリからの乗っ取りやアプリ内に登録していた情報が流失するリスクもあります。

アプリに買ったものの情報を入力するだけで、欲しいと必要や優先順位を考えたりしないのであれば、それはただ記帳しただけに過ぎません。お小遣い帳を記帳した後、自分の頭で自分のお金の使い方について考えてみなければ、何の意味もありません。金銭管理の練習は、自転車に乗る練習と似ています。まず乗ってみてバランスを取りながら、うまくいったりいかなかったりしながら、上手に使えるように練習します。お小遣い帳に自分の手で記入し、その結果を自分で眺めてみる。そして、自分の収入の中で自分なりに納得できる満足できるお金の使い方ができているか自分で考えてみる。これが、金銭管理の基本です。

岡山 SGSG×お金の学校くまもと

金銭教育の冊子が完成しました

「いっしょに考えようお金のこと。描こう自分が大人になるってこと。」

隈 直子

〇岡山 SGSG×お金の学校くまもとの出会いから

一般社団法人 SGSG は、岡山で子どもたちに多様な学びの機会と場を提供する活動をしている団体です。2020 年の夏、当時岡山大学にいらっしゃった前田芳男先生（現在は東海大学熊本キャンパス）の授業をきっかけに、徳村代表と SGSG の野村泰介理事長が知り合い、その年の 12 月クリスマスイブに野村さんたちが岡山から熊本（玉名市）に来て、「人生いろいろ　やりくりゲーム」を体験してもらいました。SGSG と当 NPO とで、子どもや若者が「自分らしく生きる」ための活動として何かおもしろいことを一緒にやりたいですね、と話していました。

〇新しいプロジェクトのはじまり

それから、約 1 年……。2021 年 11 月、SGSG の野村さんから新しいプロジェクトが提案されました。岡山 SGSG とお金の学校くまもとで一緒に「消費者教育に関する若者向けの小冊子を作成しませんか？」という提案です。しかも、単に冊子を作るだけでなく、冊子とワークショップをセットにしましょう、というアイデアでした。冊子を読むだけでもよいのですが、興味がある項目やもっと深めたい項目は、ワークショップも実施することで子どもたちが実践的に学べる仕組みです。答えは、もちろん「YES！」です。

12 月から岡山の野村さんたちとメールやオンラインミーティングを重ねてきました。特に、冊子で何を伝えるかについては丁寧に話し合い、**「お金」**と**「大人」**を主軸とし、「お金の使い方」のノウハウを教える冊子ではなく、**「お金を切り口に、大人になることを考える」**ものにしようと決めました。

熊本の私たちも、徳村代表、平野さん、詫間さん、川津さん、隈とでプロジェクトチームを立ち上げ、メールやラインでやりとりしながら原稿を作成していきました。1 月末には、ソーシャルディスタンスに気をつけながら、平野さんのご自宅に集まり、あーでもないこーでもないと話し合いもしました。やっぱり会って話すって大事だよね～を実感したひと時でした。

〇3 月に「いっしょに考えようお金のこと。描こう自分が大人になるってこと。」が完成しました！

3 月初旬に完成原稿を提出し、3 月 21 日に冊子が発行されました。冊子は、自立した大人になるために若者に知っておいてほしい 15 の項目を選び、15 講で構成してい

ます。1つの項目につき見開き2ページで作成し、各項目のポイントをコンパクトにまとめ、高校生からの疑問に答えるコーナーがあったり、クイズがあったりと見やすいものになっています。学校の授業1コマ（40～50分）で1講を学ぶことを想定し、1冊で15回分の授業のネタになります。

15講のうち、前半7講を当NPO、後半8講をSGSG（岡山）が担当しました。前半は、クレジットカードの仕組みやルールを学んだり、やりくりとは何か、消費生活に関する相談について学んだりと、科目でいうと家庭科で学ぶような内容が多くなりました。後半はお金の増やし方、税金や社会保険など社会の仕組みを理解したり、求人票の見方を学んだりと社会科で学ぶ内容になっています。当NPOとSGSGそれぞれの得意・強みを活かした冊子になりました。

今後は、この冊子を授業等で活用しやすくなるような動画を作成したり、ワーク案を考えたりしたいと考えています。

作成した冊子は、今回の会報とともに皆様のお手元にお届けしています。ぜひご覧ください。冊子デザインは、岡山の花谷さん（3月に高校のデザイン科を卒業したばかりの現役高校生（当時））が頑張ってくれました！

○冊子がお披露目されたイベントに参加

完成した冊子は、岡山で実施された「第3回18summit」で参加者に配布されました。18サミットは、高校生自身が18歳成人を考えるイベントで、SGSGの高校生活動部門に参加する高校生が中心となって企画・実施しています。18サミットでは「消費者教育　一緒に考えよう！お金のこと」のトークライブがあり、徳村代表が、野村SGSG理事長、花谷さん（冊子デザイン担当）とともに参加しました。ステージでは、「クレジットカードって何となく心配」「どうやってお金を増やすの？」といった花谷さんからの質問に大人2人が答えるという形でトークが繰り広げられました。

「18サミット」トークライブの様子。「晴れの国」らしく岡山は良いお天気でした。NHKや日テレなども取材に来てました。（2022年3月21日、岡山市の会場）

徳村代表は、桃のイヤリングに桃色の着物姿で登場し、「お金は生きるための道具。お金との付き合い方を考えて、自分の好きなことを楽しめる大人になろう」と話していました。

〇詳しくはウェブで！

下のQRコードを読み込むと、「いっしょに考えようお金のこと　描こう自分が大人になるってこと」のウェブサイトが案内されます。トークライブの登壇者写真やNHK岡山のニュースで紹介された様子を見ることができます。徳村代表の桃のイヤリングと着物姿をぜひその目でご確認ください。発刊記念の予告動画もご覧いただけます。

なお、完成した冊子は、SGSGから全国の都道府県消費者センター、都道府県教育委員会（計94か所）に既に送付されています。当NPO法人からは、熊本県内の消費生活相談窓口、市町村教育委員会等へ送付するよう準備を進めています。冊子を見て、興味を持った、詳しく話を聞きたい、ワークショップを体験したいという方は、QRコードを読み込んで、ウェブサイトからお問い合わせいただくことが可能です。

法律家えっちゃんのあれこれ講座

髙　山　悦　子（京町法律事務所）

皆様、ご無沙汰しております、いかがお過ごしでしょうか。この２年間、コロナに振り回され、やっとコロナと上手に付き合っていくしかないと思えるようになりました。

そこにウクライナ侵攻です。この時代にあのような大胆な侵攻が起こるとは、信じがたいです。私の両親は第二次大戦を体験しております。一昨年に亡くなった父は、１５歳で予科練に入隊し、零戦に搭乗していました。もう少し戦争が長引いていれば、父はそして私もこの世にはいませんでした。父は、「戦争末期には、（零戦に搭乗して）空に上がると、いつも敵機（アメリカ軍戦闘機）が待っていた。」と言っておりました。日本の暗号は解析されていました。母は、学校で「どこどこで勝った」という広報を廊下に貼り出すことが日課だったと言っていました。敗戦続きなのに、国内では連戦連勝と報道されていました。多くの国民は、その報道に惑わされて戦争の実態を知ることができませんでした。今、ロシアは報道規制をし、ウクライナ側のニュースについて、「フェイク」とか「偽旗」とか言っております（「偽旗作戦」って言葉、初めて知りました。）。事実を正しく知れば、異なる選択ができるでしょう。しかし、ゆがめられた情報、政府に都合のいい情報しか受け取ることができなければ国民は正しい（最良の）選択ができません。言論の自由、知る権利の保証は民主主義の根幹であることを改めて痛感しています。

ところで、この原稿の依頼を気安く受けたものの、何も出てこず、何も書けませんでした。締め切りを過ぎても同じ状態。そんな数日前、私の検事初任時の指導検事（今は弁護士）から電話があり、検事時代を思い出しました。私が任官したとき、同期の女性検事は過去最高の６人でした。女性が６人も任官したとして、集合写真とともに全国紙の新聞記事になりました。全国の女性検事は私達を入れても３９人でした。男性検事は全国で６００人前後ではなかったでしょうか。完全な男社会でした。また、検察庁に刑事事件を送検する警察も男社会でした。何でそんな世界に入ってしまったのでしょうか。

初任地は東京でした。東京地検は職員の数も多く、庁舎の生活に不便は感じませんでした。次の任地は松山地検（愛媛県松山市）でした。昭和６３年春のことです。口頭で辞令を受けたとき、「松山ってどこ？」って思った記憶があります。松山と松江（島根県）の区別がつかなかったのです。もちろん、聞き返しはしませんでしたが、上司は、私の反応を見て、「西日本で３番目に海岸線が長いところだ。」と付け加えました。「えっ、海岸線がどうしたんですか？」と聞きたかったけど、聞きませんでした。上司は、私が松山と聞いて落胆していると思って、慰めたかったのでしょう。海岸線が長いことが慰めになりますかねえ。松山地検の女性職員は４名（検事私１人、女性事務官３名）、４階建ての庁舎でした。先ず驚いたのは、女性専用のトイレがなかったこと

です。各階に一個づつあるトイレは全て男女共用です。想像できますか、トイレに入っているところに男性が入ってくるのです。昭和６３年とはいえ、国の機関で県庁所在地にある庁舎、しかも４階建てに女性専用のトイレがないとは・・・。女性職員が少ないといっても、検察庁から呼び出しを受ける女性はそこそこいたはずです。誰も疑問に思わなかったのでしょうか。そのような時代だったのでしょう。それで、私はすぐに女性職員と話合い、次席検事に、どこかの階のトイレを女性専用にして欲しいと上申しました。いい次席検事で、すぐに２階を女性専用にしてくれました。それから、仕事が辛いとき、そのトイレで泣きました。男女共用だと泣けなかったでしょう。その後は、中規模の検察庁への転勤が続き、女性専用トイレにありつけました。

昨年１２月、農業大学校の１年生対象に、「男女共同参画」をテーマに授業を行いました。以前、熊本県の男女共同参画審議会に属していたおり、県の取組と達成度について議論をしておりました。例えば、「男は仕事、女は家事育児」の考えについてアンケートを取って県民の意識調査をしているところです。そこで、男女共同参画推進には何よりも幼少からの教育が重要だと感じました。ある大学教授の委員は、「大学までは男女平等だが、社会に出た途端不平等になる。」と言われていました。また、男女共同参画が特に遅れている産業として、農業が挙げられていました。

加えて、世界経済フォーラムが発表した２０２１年版ジェンダーギャップ指数が、日本は１５６か国中１２０位です。教育と健康の分野はまだしも、経済分野（１１７位）と政治分野（１４７位）が大きく遅れています。簡単にいうと、女性議員の数が少ないとか、女性管理職が少ないということです。私が所属している弁護士会でも、女性の割合は２割に満たないようです。女性検事の割合は、今は３割くらいでしょうか。私が任官した当時と比べると遙かに増えています。以前ある男性がテレビで、「女性はおしゃべり好きだ。道ばたに咲いている花にさえ語りかけることができる。」と言いました。女性を揶揄する趣旨ではなく、「だから女性が国の代表者になれば、他国とのトラブルを話合いで解決できる。戦争はなくなるだろう」（概ねこんな内容でした。）と。確かに、女性は、男性に比べれば、戦争とか武力行使は好きではないようです。そうなれば、今のウクライナ侵攻はなかったかも知れません。

上記諸々の思いにより、農業大学校で男女共同参画の授業を行うことにしました。心配しないでください。「１８歳成人」の授業は他の弁護士が行っています。授業をして驚きました。学生達は、小中高校で男女共同参画の授業をしっかり受けており、その素養が身についています。今後就職して、また家庭を持ってから実践できるかは定かではありませんが。最も衝撃を受けたのは、ある学生の出身校（熊本県内）では、男女問わず、制服としてスカートとパンツが選択できると聞いたことです。ＬＧＢＴ対応でしょう。どちらかといえば保守的な熊本県でそのような先進的な取組がなされているとは、素晴らしい。その後、校則改正が進んでおり、スカートとパンツが選択できる学校が複数校あることを知りました。もう一つの懸念、農業における男女共同参画については、現状と取組などを紹介しておきました。